

八月三十一日

夕方、新大久保駅前近江屋で農文協甲斐さんと<sup>21</sup>C農村研究会（仮称）第一回準備会。率直な意見を交換する。

当然の事ながら甲斐さんの考えている事と私の考えようとして  
いる事には差異がある。差異を言葉に置き換える、つまり論理化  
するのは今それ程の価値はない。大事なのはちがいを前提として、  
それでもあるに違いない方向性（オリエンテーション）の大きい  
巾を発見し、認め合う事だ。例えば、甲斐さんは若い世代に意識  
的に希望を見てゆこうとする。それが彼のメディアの一つの軸に  
なっている。私は若い世代にはシニカルだ。希望という俗語に表  
される仮説を、計画（バーチャライズ）して、その方向に誘起す  
るのが農村計画プロジェクトだという考えである。具体的に言え  
ば、甲斐さんは現実の中にある可能性のフィールドを訪ね歩き、  
それを編集する事から始めようという考えだ。60才を越えた私は  
フィールド・サーベイは程々にして、リアルなイメージを投企し  
ようと性急になる。その違いはあるが、この研究会はやってゆこ  
うという大筋は合意した。九月七日の第一回の研究会は結城登美  
雄を中心に五名位の会で、それぞれにとっての自由とは何か、な  
んて事から大らかに、やろうという事になった。二十二時迄。

九月一日

今日は午後、左官教室の小林澄夫さんが来る。左官職にアジア  
の紙素材を供給し、内装・メンテナンス総合事業者として再生で

きないかのアイデアを聞いてもらう。日本の左官職事業所の現状  
をレクチャーしていただく予定。

九月二日

午前田代邸。午後、北京・スペシャルカー打合わせ。夕方より  
Nさんの予定。

昨日は左官事業所の現状をうかがえて良かった。職人世界全体  
にはもう何も出来ないけれど、せめて左官職の世界にだけは何か  
の方法を残しておきたい。日本全体を把握するのは不可能だが、  
幾つかのルートが視えてきたのが収穫。早速、実行に移す。

十時前田代邸、私の仕事ではないが、築十六年の建築の診断の  
如きを行う。色んな人の意見を聞かなくては。十二時前迄。研究  
室に戻り、左官再生計画をまとめる。野村に引き継ぎ。十五時松  
本孝之氏来室。スペシャルカーの件。十六時迄。